



東京医科大学に在学する石松宏章さん(25)の写真が、チャリティーサークルで資金を集め、カンボジアに小学校や病院を建てた体験記『マジでガチなボランティア』(講談社文庫)を刊行した。学生が出版企画



「ガチなボランティア」体験記



を出し合うイベント「第4回出版甲子園」のグランプリ企画。「途上国支援を通して、普段の自分を見直すことができる」と語る。

サークル運営の悩みから、病に苦しむ人たちに出会ったときの衝撃など、活動の全容を赤裸々につづった。「現地に行った時の、

生の感覚を忘れなくなかった」。茶髪に派手な服装と、「チャライ」外見とは裏腹に、思いは真剣だ。

今春大学を卒業し、医師となる。途上国では貧困が原因で糖尿病になるケースが多いといい、将来は糖尿病専門医として途上国医療に尽くすことも視野に入れている。「多くの人を啓発するのが大切だと思い、ボランティア活動をやってきた。糖尿病も啓発が大切な病気。医師になるのはとても楽しみ」と話している。